

嬉遊笑覽

內容細目
本文見本

發行所 日本隨筆大成刊行會

嬉遊笑覽細目

◎上卷

卷壹上 居所

むろ 堀立 内室作り 虚室 やぐら 穴藏 地突 千本突 浅草砂利 どう突 木やり てこの者
とびの者 あなふ築 棟上ヶ餅 手斧初 下ヶ墨 宇津保柱 みつばよつば 幸種 水視 開漏
宮殿高くなりしこと 中門 平門 妻戸 棟門 梁 もろをり戸 上土門 冠木門 中門の廊 廊の
連子 實檢の窓 侍 遠侍 武家構 玄關 書院 主殿 客殿 出居 對面所 附書院 出し文机
佛壇床 床 押板 棚 間木 置床 ゆか くれどこ あぐら 盗竹 板じき ネだ 疊 かもしと
ね 石だみ 深縁差延 ござ 高麗縁 座敷 飾物 真の飾 裏居の床 ひたひ突 塗籠 納戸
別納 納屋 土蔵 天井 くみれ 局 部屋 切かけ さゝらこ 垣 鰐板 駒よせ 蔔 隔子 板
屏 方立 障子 唐紙 衣障子 杉障子 やり戸 左甚五郎 猿戸 狐戸 鼠戸 椅風 しんさし
かけがね かすがひ 釘かくし 狐格子 京格子 江市屋格子 釘貫 忍び返し 矢來 もがり さ
かもぎ しまがき 放出 めだう 縁がは 入がは 馬頭 ひたの工 めを見する ○屋根 卷かや
葺 屋形 まくさ 四阿 まや のし葺 板葺 草葺 こけら とり葺 瓦葺 組押榑 製木 檜皮
井繩の事 地葺 とちふき 蟻設葺 火の見 屋根番 烏飛 屋根板 のぢ 三階作 瓦葺 ぬり
たる くれそぎ 槍 くれを切 塇生の屋 月役 球琶の甲 ヤスの郡 こまひ まわだし したぢ
窓 椛形の窓 聖かき窓 大和窓 引窓 突上け窓 虫籠窓 ひじり窓 しのべ竹 青琅 花さま

日暮し門 廣德寺の門 鈎殿 泉殿 透廊 千貫樋 能舞 橋殿 さじき 日藏 ひさし もや庇
 はしかくし 長明か方丈 宗鑑か庵の額 柱かくし 鉢 まかな 館かんな 正直 もち かなばし
 三妻錐 臺所 御末 中居 臺 御臺所 御厨子 御所 大御所 逆柱 ○廁 ひとのはこ 雪
 隠 後架 婦人小便 廁籌 草紙 庭 假山 島 心字の池 立石 方位家案山 案山子 山水を作
 る 鴉會 假山水 野筋 枯山水 前栽 時砂 まさご まなご すなご 島姿の様々 立
 砂 しらす 這入口 林帷 障日花舟 假山 庭石 花石綱 石燈籠 砂利置 致忠か事 路次植物
 大江佐國 建仁寺垣 草竇 庭守 庭に松葉を敷 園林 小庭 家々の名所 八景 近江八景 盆
 山 大湖石 盆景 箱庭 石菖鉢假山 木假山 菊目石 鈎しのぶ 盆石飾事 砂山 鞠子石 備後
 砂 胡麻砂 鹿背砂 石打と云事 磬山 盆繪 水上砂繪 地上砂繪

卷壹下 容儀

上古のさま みづら あげまき 豊華 結髪の詔 文身 黜面 さける利目 文身斷髪 入ぼくろ
 女子髪あげ あまそぎ 深そぎ 振分髪 うなる めさし 寶髪 釵子 かぶ 耳はさみ 髮のたわ
 髮を洗ふ 髮上と裳着 桂着 元服 髮置 帯ときに櫛を用ゆ たすきがけ 黒齒 粉 白粉 はら
 や おしろいといふと 水銀 叢砂 玉虫 媚薬 眉作ると 黒 しん 眉に色々の名あり きは墨
 べに 的 頬紅 つめべに 寒べに 膏澤 伽羅の油 花の露 びなんかつら びんつけ かづら
 須恵 ゑびかつら かつらひげ かつら捻 おぢやない 女子髪をきること 元結 文七元結は
 ね元結 月代 けつしき 下食日 蟻蠅 蟻子 さかやき 野郎あたま 額をぬく 十河額後出はふが
 み額 唐犬びたひ ハンカウ 半頭 茶筅髪 おつがみ 立髪 頬髭 作りひげ 糸髪奴 ひげ奴
 ひげまん 錄倉風 ばさら のけえもん 後えもん 錢持首 慶長風 市女笠 總髪 撫付 散切

喝僧 一束切 だて風 奴 俠士 馬咎 輞當 嘘噲買 六法男達 よしや風 鶴領組 大小神祇組
町奴 赤阪奴 男子髪の結ひぶり はけ ばちびん あはせびん ぞべ本多 かき髪 文金風 ま
き髪 豆本多 下髪 わツチ 童子の髪 喝食姿 児姿 鶴髻（わくいつ） 鶴領やう 折柳 御うちき 髮結床
一錢職 髮結鑑札 婦人の首飾 婦人髪の結ぶり 御所風 かうがいわけ 角ぐり 兵庫曲 島田
曲 やつし島田 しめ付島田 なげ島田 鷗づと たぼさし 燈籠髪 しゆすびん 女髪結 ひたひ
付 十河額出 きわ墨 片はづし 勝山 丸曲 おさふね 銀杏曲 系卷 結び髪 わりがらこ か
つくる返し くし巻 たにししゃこ めうと曲 唐人曲 おばこ結 禿 ちどわ からこ おとしさ
ら くるりおとし 髮さし 小枕 かうがい 髮搔 かんさし 耳搔 花かんさし 樺 彫櫺 螺鈿
櫛 さし櫛 政子がた 覆輪の指櫛 玳瑁 玳瑁の櫛 扇形のさし櫛 菅原櫛 さき笄 鏡 花形
丸鏡 鏡菖蒲葉を入る

卷二上 服飾

古服 紅袴 大口 褶 しひら 繻纈 十二單 素襖 脣腋 縫腋 夜着 てんとくじ 擬卷 上下
肩衣 つぎ上下 麻上下 馬のり袴 胴肩衣 羽織 ぶつさきはふり 短はふり ひきすりはふり
小袖 衣袖 染小袖 白小袖 はり綿 布子 一ちやうら 木綿 編うつ具 絹のうら付袴 法令綿
裁縫 草をうむ 花むすひ あはひ結 蟻結 めなこ結 染物 さいで 紺かき だぞめ 衣の摸様
針 すぐる まち針 擬磨針 御簾屋針 打殿 張殿 針わざを習 仕立屋 かぎさき 夜なべ 絹
布丈尺 たちつけ もゝはき 脚半 もゝぬき もゝ引 立つけ ばつち 野袴 女の脚半 けだし
かるさん ぱつち もゝだち 冂からげ はしよる ちんちはしより 東からげ せたからげ ○
合羽 雨皮 油單 簪 坊主合羽 雨羽織 懐中合羽 女合羽 めりやす 頭巾 ときん 烏帽子

折頭巾 出頂頭巾 桂包 角頭巾 長頭巾 ともこも頭巾 覆面頭巾 ほあて頭巾 丸頭巾 置き頭巾
 巾 ほうらく頭巾 をかさき頭巾 熊坂頭巾 もつかう頭巾 隱元頭巾 御高祖頭巾 奇特頭巾 氣
 まゝ頭巾 をくそ頭巾 がんたう頭巾 山岡頭巾 なげ頭巾 はげが頭巾 風呂敷頭巾 袖頭巾 大
 明頭巾 きまゝ頭巾 頭巾に作り髪 おもり頭巾 こしやう頭巾 袋頭巾 宗十郎頭巾 帽子 ゆぼ
 うし 桂帶 編を戴く 編ぼうし種々 手ぼそ うなき編 ばんぼり綿 澤之丞帽子 潤川帽子 紫
 帽子 やでん帽子 船縄帽子 角かくし 覆面 ほゝかぶり 帯 八ツ割帶 四ツ割帶 鉢の木帶
 つけ帶 かゝへ帶 鉛のしつめ 丹前帶 組帶 名古屋帶 帯の結びやう 前帶 はさみ帶 吉彌結
 ひ 後帶 疊帶 畫夜帶 鯨帶 ふんどし 手綱 はだばかま たぶさき 下帶 ひきおび 彦帶
 たぶさき 手綱 越中ふんどし もつこふんどし 早川湯具 ゆもじ 湯巻 湯帷子 風爐ふどし
 下裳 手拭 掃布 かつら包 三尺手拭 五尺手拭 四尺手拭 鉢まき たすき 前垂 赤前たれ
 衣服白色の流行 衣服の仕立 紅梅のもみ 袖覆輪 殿中流六方がより 紋所 二ツ紋 鹿子紋
 ぬい紋 そぎ袖 かます袖 篓袖 つぼ袖 筒ツぼう 衣服流行の染色 織島 八丈 橋梓 脊着 帯
 袖口 羽織 短羽織 長羽織 おすひ かくし絹 壺裝束 衣かつぎ 編帽子 むしのたれ衣 摳取
 うちかけ 手覆 足袋 胸の護身 縫箔 さうがん 縫物の小袖 箔の小袖 石疊小袖 鱗形小袖
 地無小袖 金糸 染色 かき繪小袖 後室もやう 紅染の抱へ帶 摳様の變遷 丸盡しの摸様 謹繪
 友禪 袋持 うちがひ うはさしの袋 衣包 風呂敷 すり袋 小袖裏摸様 形木 りん 半領 袖
 口 そぎえり 錢くび 衣服華美を競ふ しのぶの細染 僧徒たてなる衣裳 懸香 匂ひ玉 匂袋
 誰か袖 指の輪 足袋 機 無紋の皮 ふすべ皮 熊の皮のもみたび 紫足袋 木綿たび 長崎たび
 高麗さし 箔繪のたび 染わけたび うねさし コハゼがけのたび ふとさし 略さし とろめん
 足袋 うんさいたび すきやたび 黄色のたび 桑染のたび 緞足袋 さらさの足袋 皮たび

卷二 中 器用

履 草履 わらぐつ 爪がけ 草鞋 鼻高 插鞋 絲鞋 わらちくひ こんがう のりもの草履 げ
こんす あとつけざうり むしやわらぢ 足半 尸切 雪踏 鼻緒 毛岐雪踏 げゝ前 うげぐ
つ 緒太 爪隠し 裏付ざうり 足駄 ひら足駄 草履げた ひより下駄 げいし 足駄出 駒げ
た馬げた 江戸塗下駄 瓢の下駄 杖 鳩杖 かせづゑ 檀木杖 餘情杖 化粧杖 鶴野葭の杖 こ
ろく 興作 笠 蘭笠 あじろ笠 つぼね笠 市女笠 蓮の葉笠 竹笠 すげ笠 蘭笠前 綾の笠
編笠 白打出笠 目せき笠 都富士笠 紙緒 烧印の編笠 熊谷笠 八所綴 編笠沿革 玉縁笠 で
ん中 つゞら笠 ぬり笠 薦僧笠 小あみ笠 一文字笠 一文字笠 法性寺笠 つゞら笠前 塗笠出
紐の付様 蒜笠前 加賀笠 近江笠 紅葉笠 ひでり笠 阿彌陀笠 螺壳笠 桔梗笠 銀屋笠 ○傘
大笠 からかさ前 出遊女の傘 雨がさ 日がさ 風流傘 長柄 紅葉がさ 蛇の目傘 青傘 女笠
三度笠 大黒傘 壺屋傘 つんば傘 白傘袋 あさぎの笠袋 日でり笠 刀 さすが さやまき
糸巻の太刀 腰刀 刺刀 脇指の刀 打刀 大小野太刀 目貫 腰柄 脇指 鋏刀 長柄刀 大脇指
金鍔 立鼓柄 だんひら なゝこ 獅子に牡丹の金物 くゝみ きんちやう しじま むごん 巾
着 燐袋 印籠 藥籠 やろう蓋 荷包 帯くるま 勘清縫 緒じめ とんぼ玉 ボタン 前巾着
浮世巾着 浮世袋 暖簾の耳 届蘇袋 花袋 もみぢ袋 養袋 さくち袋 手ふくさ 財布
守袋 ふうつう 打飼 瓢箪根付 千なりびやうたん 鼻紙袋 鼻紙 叠紙 小菊 小杉 紙入 鼻
紙袋 鼻紙差 どんぶり 寸袋 ひきはだ はこせこ 早道 ○きせる 櫻ぱり 水口きせる 烟袋
烟草入 がます 烟草入 紙烟草入 繕きせる 合羽のきれはこ入 さくら張 羊かん 田沼ぱり
出世張 今戸張 らう竹 扇 かはほり 末廣 中啓 扇の骨の色 櫻扇 山吹扇 ほんぱり 檜

扇 すき扇 えだあふぎ かなめ 一束一本 しゆら扇 由禪扇 烏繪扇 扇懸け 團扇 奈良うち
 は 判じもの團扇 滝團扇 團扇形 網代團扇 塗うちは 楊枝 竹のやうじ 黒もし かんぼく
 白楊 ほやうじ 打やうじ ふさやうじ 平やうじ 皮付やうじ 爪やうじ 浮世やうじ 紋楊枝
 そきやうじ 楊枝さし 楊枝に籠ありと云ふ事 かるた楊じ みがき砂 齒取唐人 枕 藤枕 茶わ
 んの枕 捩り枕 皮枕 入子枕 箱枕 夢想枕 壊枕

卷二一下 器用

舟 飛舟 船の名 ふなたま あたけ丸 物の鳴こと 船吟 高瀬舟 をふね はしふね 平出舟
 屋形舟 檜垣舟 はがせそ いさば 押廻し どんぐり舟 過書船 てんとう舟 けんさき 二挺立
 三挺立 ちょき舟 窮屈丸 きりくす やね舟 へか舟 船の法度 屋形舟の員數 ちよろ 小早
 茶船 にたり舟 競渡船 馬ふね 酒ふね 舟形手水鉢 車 馬車 牛車 車にゑふ事 むな車 力
 車 揚 車借 大八車 八葉の車 七葉の車 車長持 卷車 シヤチ 修羅 地車 へカ車 ○興
 興昇 三枚肩 さしなひ 牛かひ童 白興 力者 扉興 網代 塵取 あんた 織部 駕籠 篠興
 山籠 四ツ手 あんぽつ 竹興 六尺 辻かご かご制禁 町駕籠員數 挾竹 挾箱 辨當筥 信玄
 辨當 面桶 片口 長持 唐櫃 長櫃 中持 ○梅 天野樽 人形樽 角樽 柳樽 わりご 檜破子
 破子さゝへ さゝ折 頓食 さげ重 さげ食籠 重箱 折櫃 箱のふたに物を盛 餌袋 硯蓋 あさ
 き椀 三方 衡重 四方 緑高八寸 かけばん 高坏 蝶足の膳 花足 ごき 定器 合子 引入合
 子 大海 内海 外居 食籠 七ツ椀 朱漆合子 塙飯 今の飯器 金鏡 壺皿 平皿 腰高 坊主
 檜 さら さはり づす ちやつ ちよく へいから 手鹽 黒椀 朱器 白子合子 山折敷 根來
 朱 薩摩椀 燕口 朽子の膳具 木具 金箔押の木具 陶器 瓷 茶椀 秘色 柴窯 青磁 定窯

汝窯 官窯 哥窯 龍泉窯 磁器のふくりん 陶器年號 饒州景德鎮 古窯 陶器に釉水をかく點
茶は黒樂焼を用 建窯 天目 窯變 水滴 油滴 手瓶 莫付 南京燒 潮戶物 藤四郎俊慶 常陸
帶 祖母懷 尾張燒 三田青磁 祥瑞 吳洲手 檀茶 古高麗 三島手 斗々屋 御本手 いらほ
井戸手燒 樂燒 萩燒 御室燒 のんこ 玉水やき 伊末里 古董 藏まはり 取賣 掘出し 法華
釜 あみだ堂 ごとく 土風爐 備前燒 大食窯 七寶燒 存星の盆 ちんき 劍金 沈金彫 堆朱
西皮 グリ 金絲 桂漿 キンマ 螺鈿 桔梗皿 はりぎ 十錦 瓷器を湯でゝ用 やき續 表褶
へり 卷たし 風帶 表具師 經師屋 手鑑 小倉の色紙 紙繪 書畫の七厄 黃食鷄 古錦 ツヽ
レ錦 摆糸絹 金紗 燒切 泊瀬の戸帳 島ちりめん 棲留島 奥島 金銀 古錢 永樂錢 錢に年
號を載る事 びた錢 闕化蝶 六條錢 福一玉 鳩の目 古錢減少 唐錢の多き事

卷二 書畫

書 ふるひ筆 早書 蚵蚓がき はしり書 ちらし書 はなち書 おひつき書 艷書 たてぶみ 包
み文 引墨メイモク むすび文 封文 捻文 禮紙 表卷 式の立文 玉づさ 惯り文 懸紙 宣旨がき
うらむかひ文 案じ文 口狀がき 筆たて 文章の長短 遊女文 封印 封じ目に印判を押 糊付
ちらし書前出 返し書 封筒 てづゝ 口づゝ 文字魚蟲の體 瓢字 ○葦手 歌繪 笹の葉がき 藤
の花書 つのは書 畫かき 花むすび こよりの文字 ヘマムシヨ入道 文字畫 木筆 米粒の書畫
油畫 紺畫 浮繪 寫眞鏡 すみ繪 白繪 泥繪 金砂子 露源氏雲 すなかし 散し物 一筆が
き 喚呼繪 鳥羽繪 榛木に羽 牧童騎牛の圖 カブラの圖 一畫付 より合畫 あくゑ 墨だふれ
ばさら繪 男繪 女繪 笑ひゑ おそくづの繪 枕草紙 笑 まくら繪 春畫 古陵の石人 角先
生 大津繪 化物繪 淨土畫雙六 浮世繪 名人とも やまと繪 ひし川 江戸繪 勝川流 歌川流

一枚繪 紅粉繪 漆繪 錦繪 彩色摺 丹繪 繪雙紙 卷雙紙 草雙紙 鼠の雙紙 しらみ本 草紙沿革 八文字屋雙繪 役者評判記 其碩が傳 大餅 自笑が事 役者似顔 東錦繪 似せ繪 繪解 繪解比丘尼 水上の書畫 白字 水を吹て字をかく 墨流し しゃほん 水園戯 拔暈 燒繪あぶり出し 畵不上者有法 石筆

詩歌

るんふたき へんつき 文字合 本朝詩賦の始 聯句 聯詩 漢和聯句 狂詩 漢和聯句 和漢聯句
 假字の詩 チクラ 詩を集てけい物を出す ○連歌 宗匠 花下 連歌賭物 紹巴宗匠にならず 古今傳授 奈良傳授 道印 幸順 基佐 柿本の衆 栗本の衆 詩歌の代作 後世よき付句なき事 移徒の連歌 露の字を質に置 古歌を覚えし事 江戸正月の連歌 連歌會 裏白の連歌 俳諧 法式 俳諧沿革 四ツ手附 噴附 取なし附 談林風 江戸談林始る 桃青が文 伊丹風 付句 其角が説一巡の事 古式 點法 永點 つましるし 長點 正風體 不易 流行 座敷乞食 天狗俳諧 前句付 冠付 笠付 三笠付 麗美前句付 地口付 もじり 段々付 謎付 物は付 六玉川 川柳點五文字 片歌 五色墨 同評 狂歌 懐劍 懐句 俳諧歌 有心 無心 狂歌者流の花押 社中を何側と云こと 秀句 かすり 口合 地口付 字もじり 本もじり 段々付 語略萬句 もじり 五文字 文字ぐさり 鶴文の詩 尻とり 南京流 ○謎 古き謎 人名の謎 字謎 謎付 ○判じ物 器物の銘の判じ物 衣服模様の判じ物 扇團扇の判じ物 盛岡のめくら曆 看板判じ物種々 柱かくし發句の判じ物 頭人坊の判じ物

卷四上 武事

犬追物 牛追物 三十三間堂通し矢 ちやうまへめつた的 水薙投 岩水練 つぶて はしき石
石打禁制 印地鎗 印地鎗 ちやうま 騰殺し せめ馬 馬場 櫻馬場 馬喰町の馬場 曲馬 甚盤乘
鬼かけ 的顛 やち馬 木馬 打毬 居合 やはら 柔氣 棒の手 金さい棒 鹿島香取の兵法 と
つたり 武者修行 長柄刀 かぎ鎗 亂破 戰船を海賊と云事 弓取 鎮取 道具 七ツ道具 千人
ぎり 鶴丸の太刀 劍術の師を和尚といふ 兵法の手 真妙剣 懸聲 斜に構る 生兵法 逃る手
相撲 相撲節會 最手 占手 助手 相撲長 立合 日本一 竜相撲 勧進相撲 京都勧進相撲 江
戸 勧進相撲 大坂勧進相撲 關脇 小結 裏關 江戸にて興行 相撲故實 相撲行司 相撲の手 大
家に扶持せらるゝ事 かたや 檀 まはし シコ名 力紙 力水 楠 假粧 髪の結ぶり 大なであ
げ 半かう剃 おてつ 四ツ辻 みつひ 前つけ 行司の出立 われ相撲 興行日數 大漢 大なる
者を馬と云事 大太ホツチ 大女 小男 侏儒 辻相撲 獨り相撲 座頭相撲 女相撲 こぶし打
腕おし 首引 すねおし 指はじき しつべい 枕引 扇てんがう 扇引 扇切 綱引

卷四 下 糸伎

續松 歌かるた 貝覆 歌貝 繪貝 文字札 貝合 貝盡 やくかひ 小弓 雀小弓 楊弓 ほうか
た きり穴 吹矢 からくり的 減多的 水薙投 投壺 うら矢 はま弓 離廻し はまなげ 雙六
名目 整の寸法 さいすり てうばみ 七半 ちよば一 四一半 目勝 榆浦 おりは 下貼 む
だ口 佛法双六 名目双六 繪双六 淨土双六 永沈双六 道中双六 おでゝこ双六 官位双六 む
さし 十六むさし ニツサ 八道行成 八道 六道 ○碁 まけわざ 白黒の位 聖目 結さす し
てう てなほり 持 手みきん 大家の人功夫稀也 亂碁 とり碁 ひろひ物 まゝこ立 虎の子渡
し 象棋 大將棋 王と玉 香車をやりと云事 番所象棋 桂馬の高あがり 廣象棋 中將棋 七國

將棋 廣象棋前 廣象棋出 はさみ象棋 とび象棋 によんによ 將棋たふし 回り将棋 盗み将棋 弾き将棋
 彈碁 ○藏鉤 なご 撃鼓射字 目付繪 帯引 福引 寶引 辻寶引 さござい お花ごま 八方ご
 ま 穴一 すほ引 かんきり から よせ けし ばうそう とももいち 意錢 摺 紙の賭 はり
 打 なめかた もちかへし もき めつき こまようろ ねんから 琢釘戯 しく 打毬 蹴鞠 鞠
 のかゝりに植る木 外郎曲鞠 まり 圓社 手鞠 一二 手鞠唄 立鞠 鞠をつく 杀屋の娘 七ツ
 小女郎 くけばに 弄玉 しな玉つかひ あやをつく 放下僧 やふれ僧 小切子 あや織 刀子だ
 ま しな玉 呪師 輪鼓 豆藏 手煉の事種々 撈倒 でんぐり返り 蜻蛉返り 宙返り 車返り
 跳筋斗 杉立 もどりうつ 猿返り 板落 枕の曲 枕踊 枕返し 扇の曲

卷五上 宴會

宴とりこな舞 設樂擊 挑遊 しだらでん 執轉提 しでのたをさ したらなし 梅花宴 花宴
 蓮葉宴 萩花宴 菊宴 吹花節 曲本宴 競宴 尚齒會 同甲會 短冊切會 變貶和歌會 百ふぐ茶
 惺雛講筵式 無禮講 隨意講 汗講 書畫會 塊飯 わうばんふるまひ 廚膳 日光責 強飯 天神
 講 大師講 伊勢代々講 大麻を配る事 ぬけ参り 無情講 身うけ講 無盡講

歌舞

神樂 大角小角 わさをき 力士儺 樂府 久米舞 田舞 田樂 田樂法師 能と云こと 新座本座
 五節の舞 小田樂 大田樂 びんさら 中門口 品玉 白拍子 男舞 曲舞まひ 大頭 幸若
 猿樂 散樂 能 謠曲作者 四座 三座 江戸勧進能 大藏 狂言師 驚のこと 驚舞 大醜 アラ
 、ギ舞 延年舞 踏歌 千秋萬歳 三河萬歳 早歌 鳥追 春駒 やしよめ をどり ひんたの踊

盆をどり 小町踊 かげ踊 中踊 燐籠踊 花園踊 題目踊 念佛踊 泡齋念佛 葛西念佛 鹿島踊
舞々 正月さし 伊勢踊 千代の松坂 岡崎踊 王生狂言 柴垣 雀をどり 手拍子

卷五下 歌舞

歌舞伎 名護屋山三郎 傳助が糸より お國歌舞伎江戸に行はる よし原町 若衆かぶき よしはら
町歌舞伎 中橋に芝居興行 祩宜町 女形かぶき 海道下り 芝居由緒書 内證道 茶屋 花居土蔵
作 三階作り 三ヶ津芝居の始 桐長桐 歌舞伎事始 野郎ほうし 芝居衣裳 宮地芝居 役者わき
ありき又居所の制限 昔江戸に女形稀也 ほめ詞 獨り狂言 若衆能 似せ野郎 狂言作者 つらみ
せ 河原者 瓦舍衆伎 男舞 女舞 座元名代 やゝこ踊 仕形踊 をどり子 町藝者 舞子 竜は
らひ 巫子 物質似 聲色 にはか 茶番 吉原のにはか 座敷茶番 素人狂言 順の舞 かばちや
踊 しやみこをどり なれこまひ 御寄講 猿若 鳥追 女大夫 さゝら踊とり追やぐら 大黒舞
春駒 獅子舞 大神樂 代神樂 越後獅子 角兵衛獅子 蛛舞 都盧 ちやるめら ちやらほら
ちやらほら 軽業 緒小桶 幻術 れんとび 輪ぬけ 水からくり 人馬 十二座神樂 神事舞

◎下卷

卷六上 音曲

管絃 琴 青葉笛 山路が笛 筝 筚紫琴 八橋一流 組歌 こと爪 假甲 爪ひき ○三線 阪咸
月琴 二絃 四絃 五絃 三絃の渡り始 小弓 琉球組 古近江家譜墓碣 三絃六筋かけ 八筋か

け 古製 繼さほ 催馬樂 風俗 郡歌 宴曲 今様 小歌 らうさい 長唄 隆達なげぶし 一上
 り 一下り 調子 なげぶし さとんざ しばがき踊 ほそり 口説 加賀節 めりやす めりかり め
 りはり 土手ぶし 大盡舞 半太夫ぶし かぢるといふ事 なげぶし出 再よしの山 小倉踊 川崎音
 頭 間の山 伊勢音頭 琵琶法師 平家物語 琵琶法師參院の事 地神經よみ くわうじん 天夜の
 尊 名字の最初 築紫方 八坂方 坂東方 總檢校 紫衣勅許 八坂方再出 綱引 漕入 凉の塔 雨
 夜の城了 城宇都字のこと 城を一と訓しこと 盲女 ござ 陶眞 按摩 腹とり 按摩とり笛をふく
 足力 薦僧 暮露 馬ひじり こも僧尺八を吹事 普北禪師 尺八 一節減 俠客尺八を吹 名ある人々
 こも僧の體古今異なり 鼓弓 らへいか 提琴 胡琴 四ツ竹 歌板 木琴 繩甌 オルゴル 風樂
 しやぎり 講花鈴 鳥おとし 風鈴 音律の妙 調子を聞て占ふ 鶲鶲石 繩石 山びこ 鶲鶲が辻
 八人藝 三絃曲びき 八撥 踏鼓 八からかね 寒聲 說經 淨るり 鉢扣の歌 歌念佛 歌説經
 かるかや 祭文 歌祭文 江戸祭文 門説經 仙臺淨るり 門だんき 色祭文 淨瑠璃 薩摩 淡路
 左内 宮内 喜太夫 虎や 女太夫 とさ淨るり 土佐外記 薩摩外記 こすいでん 小さつま
 大さつま 語齋 半太夫節 河東ぶし 十寸見堂 角太夫 都一仲 岡本文彌 阿波太夫 宮古路
 竹本 豊後節 常磐津文字太夫 富本 新内 鶴賀 岡本 宮岡 義太夫淨るりの始 宇治嘉太夫
 竹本義太夫 豊竹若太夫 豊竹肥前 ○あやつり 小平太 操道具 石井飛驒 でこのぼう だうこ
 のぼう おやま人形 淨るり座看板の圖 のろま人形 そろま むきま 出づかひ辰松 淨瑠璃作者
 近松門左衛門 井原西鶴 南京あやつり 雨がへる 南京と云事 おでゝこと云事 からくり人形
 せんまいと云事 彌三五郎 竹田 覗きからくり 硝子を事る事 獨狂言 檜人形 笠人形 興次郎
 人形 梅盤人形 七變化

卷六 下 翫弄

兒戯 あはく かふく ほうしご 鹽のめ れろく べろく ねんく ていく たい
コテンの詞 人見しり がてんく かぶりく あわく あんよ とく 隠れ遊 かくれく
ぼ 目かくし めなしどち いちくたちく 捉迷藏 芥かくし 草履隠し 鬼ごと 子をとろ子とろ
小路がくれ 鼠まひ 耳ひき 指きり ちんくもんがら 竹馬 高足 馬貝の戯 鳩車 べかく
う がごし むくりこくり ゼトがかう 皿屋敷 てんがう うぶめ もうが 目くらべ 耳引かけ
しつべい かけくらすみたふれ 紙つけ合 アリヤリヤンリウ 馬のり はい馬 肩ぐるま 手車
道中駕籠 うなぎの瀬登り 苅虫ころく ひやうたんばつくりこ 鬼の留守に洗濯 目じろおし
つばな拔 手にて豆を作る事 巣をくふ わやく ャニチャ だゝ 卵植 またぶり 卵杖 剛卯
打毬 稲杖 ぶりく 玉振々 きつちやう 玉をきる 飾り花 さつきの玉 藥玉 茄夷 十二月
かけ物 菖蒲冑 菖蒲縫 剥りかけの冑 菖蒲刀 冑人形 ちまき馬 小兒山伏の學び 羽子板 こ
きのこ 内裏羽子板 京羽子板 つくばね 踏毬 あまがつ あからこ 人かた流すこと はふと
犬張子 犬の子 額に大字書くこと ひくな ひくな家の家ゐ まゝごと 雜祭 雜流し 雜の調度
繪櫃 ちぎびつ あまさけ 白酒 生姜市 飯餃 後の雛 紙雛 裝束雛 江戸雛 土焼の雛 奈良
人形 衣裝人形 押繪 子なき女人の人形を愛すること さゝやかなるもの 獨樂 はかた拍 ぶせう
ごま ばいごま ちたんぼう たうごま はんとうごま 坊主ごま 木ばちまはし いかのぼり た
こ からすだこ うなり つるはかし 硝子よま 切ぬき風 からくり風 鞍鞆 白杵 ツクマイ
いしなどり きさご大小 したどみ はじき きさごはぢきのツマとヤツ どうく めぐり 一の膳
いやく まはりまはりの小佛 ぼうずく 千鰯萬鰯 ハイロン かみかたかれ かたこ いたい

け てうらかす しりもちつく のゝさま おつきさまいくつ十三七ツ 尼が紅 おまんが紅 あま
木のぼり ひなたぼこり 土なぶり 砂あそび 小家を作る 箍廻し 雪の山 ゆき佛 雪ころば
し 雪灯籠 雪やけ 雪女 雪こんこ 雪打 寒垢離 寒氷 水をたゞく戯 小兒翫物字の事 ころ
く 无木簾 げへ 竹かへし つき ふりつゞみ はりつゞみ おきあがりこぼし ふんだん 紙
えぼし ひたひ紙 合點首 錢太鼓 唐人笛 豆太鼓 風車 張子 笛 獅子笛 篓笛 篓松笛 ひ
ぱり笛 築の笛 むぎ笛 ぽんびん ぽこんく 猿 譚き猿 懾さる 鈎する猿 つながり猿 水
挽さる 米搗さる 桃核の猿 蜜柑の猿 松笠の鳥 茄荷の鶴 折形の蛙 折居の鳥 紙捻の犬 鈸
切形 假面 めんがた 般若面 尉の面 乙御前の面 天狗の面 しほ吹 芥子人形 今戸焼の小人
形 相撲人形 金平人形 飛人形 軽業人形 てんぼ 土の西行 土燒の鈴 麻膜羅 七夕の短冊
繪のぼり 頭巾すゞかけ つけぎの燕 とんぼ 蝶々 小鍋 箔の團扇 ほづき挑灯 麦わらの蛇
唐圓扇 葵の穂鳥獸 つぼく 削り花 餅花 栗花かやの穂にて馬猿など作る 作り花 五色網
はぜの花 はぜ えんぎの金 箔おきの金 一文長刀 浮鳥 浮人形 酒中花 紙でつばう 豆でつ
ばう 虫目鏡 竹の吊瓶 ふくら雀 雀の笛 與二郎人形 笠の上に人形を置いて舞す 人形筆 湯本
細工 ひきもの 手車 錢ごま きやこん びやぽん 狸々小僧 飼鈎 あやふや人形 かはり屏風
芋虫 ほうづき 江戸ほうづき 丹波ほうづき 海ほうづき 草の葉を鳴す 葱を吹 真菰の馬
篠船 松葉の鎖 ちやわんの尻を掌に付る事 瓜さし 核柿 ほどち 豆奴 菓物燈籠

卷七 行遊

行遊 手向 鹿島立 坡迎 松と胡桃 ぬさ袋 旅籠 百はたご 伊勢參 三寶荒神 二方荒神 し
まさん紺さん お杉お玉 びつき 歌枕 遊山 花見 白銀炮 花見小袖 衣裳幕 知恩院八坂 上

野の繁昌 飛鳥山 日暮里 向島 蔽簾はり 名所 上野山 潟田川 浅草川 目黒 曹司谷 王子
護國寺 深川洲崎 佃島 報恩寺 坊主もち 八景 納涼 礼 茶屋 紅の涼 四條の涼 屋形船
船遊 大屋形船の始 をどり船 花火船 船賀 御座舟 変流 杯なし 水練 水掛あひ 水馬
浮舟 うろ／＼舟 くらはんか舟 つきつけ賣 堀離 大山詣 富士詣 千垢離 富士嶺登り初め
富士の高さ 禅定 身祿がこと 山上日出 氷駒込富士 新富士 順禮 三十三番觀音順禮 お
ひする 西國順禮 六十六部 遊行上人 回國順禮 四國廻り 廿四輩 廿五ヶ所の靈場 七福參り
六阿彌陀詣 千社參り 百塔 百寺參り 新高野 三塔順禮 百度 千社參 物詣の落書 手ちや
うらく 居所の柱に歌を書く

祭祀 佛會

祭會 御師 御祓一萬度 日待 庚申 三猿 呪歌 七猿 甲子待 大黒天 三面大黒 橋板 夷子
講 賀茂祭 飾り車 祇園祭 山鉢 大嘗會標 无骨村 あぼう鉢 江戸山王御祭禮 神田明神祭禮
祭りの露拂 ほろ 屋臺 金鉢 神田神事能 祭禮番組 拍子 錄倉拍子 品川拍子 だし 豪尻
氏子 根津權現祭禮 寶永祭 練り物 秋葉祭 風流 放免附物 ふりうの面 細男 祭目異體
阿波大杉 魁星 文昌星 三十年開龕 開帳の奉納作り物 嵐峨釋迦 善光寺如來 本多善光 祕佛
今出川藥師 目黒不動 梅若像 下總諏訪明神之像 本尊流落開帳のぼり 善の網 散米 くま
はなしね 打蒔 さんぐ 散錢 賽錢 初穂 十二銅 つゝお米 緣日 朝觀音夕藥師 寅藥師 そ
より觀音色藥師 聖天 うそ替 陽物を祭ること

卷八 慶賀 忌諱

忌諱 五月忌 正五九月に婚姻を忌む事 三齋月 六齋日 掃ことを忌事 俵子 麻鼠うち 春の始
の祝ごと 新宅は三年煤を掃はす すゝはきの壽 脣あげ 福は内 厄落 厄拂 やあら／＼ 東方
朔 門戸を扣事 つと入 初夢 寳船 巡文の歌 猛 夢ちがひ 猛の札 猛枕 虎枕 唐の頭 虎
の頭 大はりこ 染物を忌む事 懸想文 若夷賣 名詮種々 移徒粥 粥杖 嘉定 嘉定錢 嘉定唯
八朔の賀 物忌 齋宮の忌詞 米をしね又よねと云ふ 梨子をありの實と云ふ くる／＼ こしき
袋 人の母を御袋と云ふ事 夷子紙 夷子膳 砥の水に我影をうつさず 砥に物書く事 福と云ふこ
と 福わけ 移り紙 としの實 炙の忌日

方術

嚏の頌 小兒衣の守り とく萬歳 くそをくらへ 鼻に紙捻に入る あくびのうつる事 休息の字
呪の師 廁にて郭公を聞く 芋畑にて杜鵑を聞く がんばり入道 水祝 水懸振舞 師走油は火にた
る わる樽 事始 事納 すゝ拂ひ 節分に籠を戸外に出す 虫除 虎の字 小兒の退歎 しびれの
呪ひ 疫神を送る 風神送り 送疫鬼 鐘馗の畫 照々法師 蚊帳に雁金 蚊の呪 蚊屋 こきのこ
門戸に蟹殻又蒜を掛くる事 時ならぬ正月 こま犬の足を括る 盗賊の呪に手洗を伏す 猫の逃た
る呪 白の目切 膝によはさる方 藥 祈禱 箸鳴 壺口禁忌 口寄 ものゝけ より人 寄絃 神
より板 巫女 縣巫女 いちこ 外法頭 うしろ佛 狐つかひ 茶吉尼天 飯綱 五通 こだま 髪
きり 牛馬を呑む 婆々狐 狐の書畫 金蠶 箕仙 大神 蜈蚣 すいかつら 圖 簡 關帝鐵 盆
校 辻占 足占 橋占 口占 鏡聽 韶ト 街ト 石ト うらやさん 算おき 寶ト者の體 起課
ありまさ 疊さん 灰ト 虎ト 投さん 歌占 卷ト 夢合 夢解 胸に手を置て寝る 夜は夢物語
をせぬもの 一富士二鷹三茄子 貧乏圖 御祓くじ 觀音くじ 九姑玄女課 無盡鏡の呪 五百羅漢

の顔にて占ふ事 仕かけ山伏人を迷はす

卷九上 姫妓

吉原の起源 元吉原の再興 鈴の森 大夫 格子の君 はし 局 大夫の名目 散茶 五寸局 三寸
局 うめ茶 風呂屋もの ギウ ちらし お茶を換く 吉原の町々 鐵炮 けんどん 傾城風俗 切
賣 女郎の風俗 二人禿 遊女柳をさすこと すあし 内八文字 大夫の絶る事 遊女の道中 燈籠
の始 櫻を植る事 俄狂言 遊女の數 昔の太夫 とられんぼう べらぼう とりんぼ ぞめき樂
兎の御の字 前わだり やきて だてのうすぎ 三枚拾 花をやる 紙ばな 花に色々 揚屋さし紙
揚屋紙 やりて 花車 ぎう きんちやきん十郎 おひやる 素見 ぞめき そゝり 冷かし
油むし けんさま 新五左 遊女の詞 きちんとといふ事 おいらん 丹前 丹前風 勝山 奴風 編
笠やみし事 あみ笠茶屋 土手の馬 附馬 町鶴籠の制限 吉原駕ご 温泉 湯あみ 板ぶろ むし
風呂 伊勢風呂 枝榴風呂 風呂吹 水風呂 錢湯 湯舟 薬湯 しほぶろ 竜風呂 湯女風呂 瓦
蓋三 女藝者 太鼓女郎 永代島 かくしよね 處々の茶屋者 女の牛鬼 比丘尼 まるた 勸進
比丘尼 賣比丘尼 めし盛女 踊子 かこひもの ころび藝者 いろは茶屋 踊ころばし 遊所 紺
つみ 地ごく 町藝者 はをり藝者 百藏 さげ重 山猫 惣嫁 船まんぢう 筒もたせ 呼出し藝
者 深川新地

卷九下 姫妓

うかれめ あそび 遊女傘をさす 子夫 子君 古へ遊女招かざるに押して来る 遊女人を撰びて逢
ふ 町賣 遊女乗物にのる事 島原起源 おろせ 島原人形みせ 曲 忘八 傾城町賣 夜みせ お

どり場 檻籠井作り物 遊女の異名 太夫 三八 天神 かこひ きんご 半夜 端局 暖簾 席
 中昔のさま 遊女伽羅を焼し事 金看板伽羅の男 衣服 若衆女郎 うき世詞種々 すいぐわち
 ぬめる しやら わざくれ のさばる 太鼓もち どうらうつ 一日買 大門をうつ事 紀文の事 桶
 ぶせ 朝込 壺入 入ぼくろ 傀儡 日本国中遊女町目録 祇園町 八坂 石垣町 こつほり 所々
 の新地 藤森稻荷の茶屋 伏見の樟木町 柳町 柴屋町 大坂新町 瓢箪町 佐渡島町 越後町 揚
 屋町 夕霧 阿波の大盡 山本與次兵衛 梶久豆時 瓢箪かしく 梶久墓 新町遊女の數 大坂中茶
 屋 脂粉錢 樂戸 地獄 噎物 月掛 掠もの 蓮葉 瓠ばらひ 比丘尼ふね さうか 夜たか た
 ちぎみ つじきみ 男寵 若氣 にやけ すはり 阿笠と云事 田樂猿樂の少人 かけま かけ子
 かけらう 若衆歯を染る事 小草履取 香具賣 小草履取 草履取禁制 渡り小性 かけま看板 飛
 子 新部子 野郎 江戸かけま茶屋 舞臺子 色子 男風すたりし事 金剛

言詠

詞に古今雅俗の異あり さゝじん まちかね こがらし うぐひす 鰯をむらさきと云事 こすく
 來々 しらぢ たち木に水かね けちないなりでとりゐがない きそん十七寅の年 らつひらんく
 わい すつぱのかは ちよひ／＼ あつちや／＼ ゃんや 日本一 天下一 三國一 門前一 よご
 ざりましやう もさ 奴詞 致ます御座ります やつがれ ちんぶんかん すこたん しこたま つ
 がもなき てんこもない まんざら 十方もない てつぼう ふがいなし 逆こと葉 大原のざこ
 ね 入間詞 ぐりはま ありや／＼ 一字はさみ ちよろまかす やくしの前地藏の後 ちゝむさい
 謂 御茶が湧 咽が乾 へらぬ口 あぐむ 喫過ればあつきわするゝ ほうろく千につち一 座頭
 のよばひ 鍋尻やく 興吉が女房 古今の謡 圖はづれ みしやれかつたい お茶あがれ 耳たぶに

よる 若いがきどく さばほん あんばんたん おや玉 近來流行詞 やくさ べらぼう しみたれ
江戸の流行詞 すべて ふてふ やけの ゃんばち わんばく なんかん きいた風 耳こすり あ
てこすり 講釋師 辻談義 太平記より 軍談の双紙 辻講釋 咲 巡物語 利口物語 百物語 ち
ゝばゝの物語 猿の尻 狸の火傷の咲 瓜姫の咲 幼あそびの話 鈴駒 桃太郎 鬼が島 隠れ蓑
隠れ笠 舌きり雀 酒顛童子 羅城門鬼 花咲せ爺 落し咲 お月様いくつ 咲に名ある者 野間
藤六 伴内 曾呂利 藤六に同名の者 スツバ ラツバ 安樂庵策傳 露五郎兵衛 鹿野武左衛門
休慶 小左衛門四郎齋 露休 彦八 おどり萬歳 志道軒 講釋師 積銀杏 はなし家 豆藏・口づ
ゝ 寄せ 蟹のはなし 心學

卷十上 飲食

飯臺 ひめ 飲食節用 昔武家にて晝飯を食ふことなし 幾本立 七五三 菜 汁かけ飯 鰐足
別足 大臣大饗 物の食やう 宍 四足類料理 飯市 楚割 すぢ魚 包み焼 昆布巻 肉菜になら
ひて作る精進物 雑子やき 狸汁 鴨焼 糟鶏 壺燒 筍干 さく／＼汁 いとこ煮 おこと汁 ム
シツ講 むしつ汁 ことづて汁 ばくち汁 筍館 和雜餠 かざうなます うづら汁 あをがち か
ぜちあへ かじやうなます 酢むつかり すみづかり わさびおろしの異制 稲荷祭供 がり／＼お
ろし 後段 魚羹 點心 引菓子 飯の湯 鬼毒味 昔は寺々一食なり 非時事 食前方丈 かよ
ひ 香の物 奈良漬 澤庵漬 ふくらに すつぼう 櫻煮 駿河煮 うどん豆腐 茶碗蒸 杉焼 か
まぼこ 竹輪かまぼこ 板かまぼこ 下踏と焼みそ はんぺい 鬼みそ 天笠ひしほ 宇治丸 鰻
なまづ すんぽん 團魚 料理茶屋 女の料理人 江戸料理茶屋 奈良茶 けんどん 百膳 淡雪豆
腐 十二文茶漬 田樂 菜飯 麦繩 冷麥 热麥 入麺 垂丁汁 烹雜 雜煮餅 雜炊 蕎麥 蕎麥

切そばがき むしそば切 けんどん 大名けんどん 提重 忍びけんどん うどん桶 伊吹蕎麥
 溫飼 鶏卵うどん 溫飼に梅干を添る 二八蕎麥 夜鷹蕎麥 風鈴蕎麥 しつぼく 夜の煮賣 手打
 蕎麥 葛西太郎 夷宮 道光庵 むさしや 麥斗庵 あすか味噌 法論味噌 濱名納豆 ざせん納豆
 ちやのこ ほろあへ 扣納豆 冬瓜のきり賣 鰹節を削て賣る 煮染豆 坐禪豆 寺納豆 一休納
 豆 金山寺みそ 鬼みそ 三峰尖 しゆみせん汁 梅ひしほ 昔のひねたる料理 口頭 吸口 醒醐
 獨活芽 鞍馬木芽漬 淺草海苔 初蟹 初物を走りと云こと おんざのはつもの 初茄子 青梅茄子
 松もどき 茶筅茄子 蓮花茄子 きくみ 唐茄子 薩摩芋 薩摩芋先生 竹 しつぼく 食卓 南
 蟻 鳴南蟹 みさご蛸 一夜すし なまなり 釣瓶鮓 雀すし 食すし おまん鮓 當座鮓 鮓賣
 松がすし てんぶらあげもの 栗生姜大根の花形 大黒煎餅 西瓜 真桑瓜 本所瓜 本所瓜 銀ま
 くは 金まくは 梵天瓜 りんごの紋 酒宴獻酬 まはり酌 鬼のみ 酒をのむに種々の名あり 中
 のみ 鶯のみ 三ツ星 取達 蓮のみ 相よし 瀧のみ 卯酒 研水 酒戦 杯に種々あり こうろ
 ぎの盃 黒塗の盡朱器とりさん 織部 をはら 巨羅 鬼ころし 可杯 五と土器 むさしの 玉
 子盃 吹よせ 貝盃 太郎貝 うかむせ 雀盃 下り酒 四斗樽 清酒 潤酒 造酒改焼印 酒の肴
 に難伎 早こと 物まね さかな舞 見さいな はやしこと 摂戰 拳すまふ 狐拳 虫拳 蝸牛の
 功用 中指の戯 拳玉 與次郎人形 酒胡子 撃席 甘葛 甘蔗 からくたもの 手束 索餅 餅談
 粉熟 團喜 粘臍 餅餠 餅餠 餃子 沙糖 饅頭 十字 大湯餅 點心 美菜 元弘様 羊羹
 魚羹 水穀 いせん巻 龍葵 蕎麥麺 けんひやき 茶子 昆布茶 苔波 しんせい豆 衣豆 麵
 餅 興米 道明寺 引餅 椿餅 やきもちひ 鶴やき うつら餅 胴はれ 姥がもち はらぶと餅
 大福餅 自在餅 神在餅 善哉汁 汁粉 すゝりだんこ あんころばし ぼたもち かき餅 萩の花
 お萩 福引 圓山かるやき かい餅 煎餅 片餅 鬼煎餅 醒井餅 軽焼 鹽煎餅 硬糞燒 糜の

やき 朝貌 經卷 助惣 銀鐸 どら焼 金鐸 雁金燒 さゝ餅 藤の花 しんこ馬 あこや あか
つき 龜甲もち 櫻餅 杉原もち あんびん あも いまさか 餅 米饅頭 臥饅頭 姫饅頭 洋饅
豆飴 いねま餅 矢口餅 亥日餅 黒餅の紋 玄猪の餅 御嚴重 花びら 花のくだもの ちまき
宮筍 花びら菱餅 はなくそ 御福の餅 餅花 みたらし團子 目黒の餅 算木餅 青ざし 金餅
糖 落雁 羊羹 正徳中の菓子ども 七色菓子 煉羊羹 南蠻菓子 てんぶら 百一口の菓子 ひき
ぼし みづから 昆布 國土の菓子 山女 一位の實 林サクノ木 椅の左卷 玉づさ 氷豆腐 こ
ろ柿 かひ舗 くだ物いそぎ 白強飯 赤飯 潤戸の染飯 喰倒れ 煙草 花山たばこ 煙草の禮式
きせる廻し 長烟管 烟管の鍔 煙の輪 刻み烟草賣 薄色 嘸烟草 水煙 異さまなる烟管 烟
管通し 茶 漢土の茶の事 茶稅 臘面 國茶 とうちや にがちや 煮茶 本邦茶の始 換茶節會
岩上茶 宇治の茶園 宇文字 走摘 朝日園 宇治の茶摘 魁色茶 ばん茶 初昔 後昔 茶製造
唐茶の製造 日本の製法 茶式 一椀にて數人喫す 本の茶 非の茶 回茶販茶 茶歌舞伎 講茶
茶道坊主 同朋 數寄 茶式傳來 利休 わび すきこそ物の上手の歌 九輪釜 人眞似 里見家の
茶禮 白茶 嘴茶 青茶 はな香 極揃 別儀揃 意氣 苑香 雲脚 點法 茶をもみぢにたてよ
先輩の論 茶神 漢土の茶人 茶を磨事 茶具 茶筅 茶匙 茶托 茶湯ふくさ だうこ 茶桶 茶
杓けづり 小塵敷 ひたひつき 圃ひ 地火爐 灰匙 五德 白炭 遊女が茶湯 一服一錢 水茶屋
辻賣煎茶 煎じ物 櫻湯 茶店 鹽茶 隅元茶 滲茶 賣茶翁 茶煎 煮花 煮散方 茶は宇治の
本郷を最地とし 茶品 江戸水道の沿革 芭蕉桃青水道の普請にかゝりし事

卷十下 火燭

まり燈臺 結び燈籠 高坏 菊燈籠 漢土の燈市 七月の燈籠 猪籠 しよんかん 辻燈籠 つじが

花 切子燈籠 燈籠見物 柱松 たちあかし 車たいまつ 蠟燭 挑灯 蜀黍の眞 せつかんろうそく 朱かけの蠟燭 發燭 つけ竹 ほうづき挑灯 行燈 懐中ろうそく ひじり行燈 たばこやの赤
あんどん 回り燈籠 走馬燈 戴燈籠 櫻燈籠 かんてら 影繪 影人形 化物ろうそく ぼんぼり
遠州 益燈籠 箱挑灯七月用 高燈籠用 地口行燈 初午 行燈に傘 さぎちやう 爆竹 唱文師
大黒 左義長の法度 御火燒 吹轍祭 庭火 火廻し 火もじくさ 文字鎖 火渡し 脂燭の詩 し
そくの歌 影法師 花火 大からくり 十二挑灯 火桶に足を暖む 火燧 槽 置火燧 板倉の冷こ
たつ 火を起す 火びつ 燃石夜に光りある物種々有り 夜光木 鬼火 東大文字 北辰燈 蝶踊
月華日華 正月庭籠 救火のまとひ 火の見やぐら 沈香 伽羅 奇南 蘭奢待 たき物 合香の名
香式 十種香 十炷香 十茶香 源氏香の圖 系圖香 鼻根嗅 香を聞 初音 柴舟 香を多く
用ひし事 まなばんまなか 銀葉 香敷 千鳥の香爐 蛤貝に薫物に入る事 うぐひす

卷十一 商賈

暖簾 みせ店 慶子棚 町屋等 立賣 口上商人 れんちやく 相物 すあひ 毛二歳 すあひ相場
藏まはり すあひ雜魚 問屋 替錢 問丸 底給仲人 物を頭に戴く事 ちやう 大原女の
はゞき 千日詣の行人 鳥足 水汲女 わけもの 看板 酒はやし 物の賣聲品々 菜さう でい
／ 小便買 千駄櫛 高荷 竹馬 吳服屋 江戸の町みせ棚のさま 現金安賣掛直なし 引札 古
着屋の起立 古金買 振賣商 商物の相場をふれありく 初 ふり賣札 髪結札 棒手振 棒にふる
青豆時 安賣十九文 とつかいべい めける 館賣の笛 館賣の傘 よみ賣 遊賣繪双紙 紙畫 ほ
うろくの一倍 つきつけ賣 暖簾師 口上商人 やまうり ヤシ めづらしき商人品々 耳の垢取
餡菓子諸の藥賣 蓮葉商 しもたや 古道具屋 まゆむ 茄子の枯るを舞と云ふ

乞士化子

乞食 阿彌陀の聖 暮露 鉢扣 鉢扣の歌 高野聖 いたか ひじり ひじりと云吳服屋 せり吳服
せり賣色々 作り山伏 梵天 桂女 桂飴 大原みこ 八瀬大原 姥たゝ 物もらひ偽多し 手燈
頭香 腕香 火わたり 腕きり 仲間六部 鳩の飼 すれからし 鳩の戒 慶庵 口入 はうさい念佛
葛西念佛 方薬拂 あほう拂 てうさい坊 よせい だて者 べらぼう 穀つぶし 足を手に代 鼻
で笛吹 胸たゝき 節季候 鳥追 きよめ 非人 かたる 物吉 かたる仕切札 なりんば 乞丐人
髪を断る 雪駄直しでい／＼ 非人小屋 乞胸仁太郎 新非人 女兒の非人を町人の奴となす 出家
山伏願人坊主名前人數調 願人すた／＼ まかしよ 木葉坊 神事舞太夫

卷十一上 禽蟲

見せ物 水右衛門 鹽屋長次 蝋づかひ 蝋蠱 犬神 くだ狐 孔雀づかひ 天狗のみせ物 猴ま
し 猿を廐に置く事 猿引道具 猿廻し廐の祈禱に出る 猿眼 蛋とり眼 猿眠り たぬき寐 猪睡
貉評定 貉つき 四國を廻りて猿となる 人を馬となす 食後に臥て牛となる もう／＼ 十二支
の歌 光陰の道行 十二相屬 御猫産子左右大臣有産養事 猫乳母 猫も杓子も 猫のちよつかい
猫に袋 三毛猫 へげ猫 犬に名を付ることいと古し 犬けしかくる 犬ころ 犬の聲べう／＼ べ
い犬 一もつ ちん 白鼠 熊鼠 番頭の白鼠 鼠の嫁入 鼠鳴 鼠おとし 人を鳥獸に比す 鼠ご
つこ 鳴ごつこ 鳴のまかげ 鳴みめよし 鳴火にたゝる 狐の窓 狐の挑灯 獺 うそつき彌二郎
藪の中で屁 うそ八百 萬八 千三 禽獸の勢を去る事 鳥が鶴のまね 蝙蝠山椒くれよ 鳩空中
にて投食をはむ 雁々棹になれ鈎になれ 蝠牛角出せ 蝠の棒つかひ 榛櫻の蠅たゝき 蝠取り株

虫繪 蜂拂 ウソフキ 蛙の吊 蛙の合戦 蛙が目を借りる 蛙を釣 蛙を食 かじか 螢狩 宇治の
 螢合戦 石山螢谷 蝉を捕る 蝉脱 西はどう つく／＼ぼうし 蜻蜓を捕 蛛の灸 腹きり蜘蛛 あ
 まのじやく 水馬を釣 虫撰 虫吹 促織 蟪蟀 鈴虫 松虫 ちんちろりん 虫籠藤花 虫屋 麦
 稲籠 虫を商ふ者 虫を種る法 松虫の卵を取る 蟬を飛す ひを虫 虫の油を髪にぬる 箕虫 鬼
 子の諺 蟻の熊野参り 蟻の合戦 蟻の塔 あばれ蚊 蚊の鳴聲 蚊蝶陰晴を知る 蝶笛 小兒陰
 腫 虫目鏡 聞鶏 しゃむ 野郎遊女が鶏合 小鳥合 鳴合 あひろ かりの子 鶯谷 三光 昔の
 鳥籠 鶯受取り渡し 黒はうぐひすにあらず 鶯の産地 鳥を弄ぶ事 鳥屋 付子 鳥さし 江戸鳥
 屋の事 水陸鳥問屋の事 驚の目縫ふ 鶏合 麦うづら あひ夫 聞鶏 放ち飼 傳書鶴 はとの聲
 鳩の聲 白鳥 しとゝ 瓢をねくら 賦の草莖 賦落し づく落し 囂の事 寒苦鳥 寒號鳥 諸鳥

卷十二下 漁獵

鷹狩 大 鶲鷗つかひ 鶲繩 猿が鳥に鶲のまねさす 漁獵の事 鹿狩 狗山 しゝ狩 釣 六物
 ぶり 荻梗 蚊かしら 餌畚 あま 釣殿 はい尻笠 蚯蚓 ごかい ぬけ糸さ てぐす 笠 ひゞ
 いけす やなず 網代 ひゝ竹 あぐり網 大網六人引 御菜白魚網役 どううけ やな 鯉魚や
 なに落す 江戸近國漁獵の壇場 ふしつけ 鮎を一尺二尺と云ふこと 地獄網 佃島由緒 白魚を取
 事 御菜島 大まき 汐乾 突魚 ひし やす 立こみ かなわらぢ うなが穴釣 數珠子 見突
 底突 空突 竹蝗 きす釣 はぜ釣 根釣 漁獵止の札 川釣 田船釣の始 釣宿の始 殺生禁制
 はやつり たなごつり 髪毛を糸に代て用 岡釣 堀釣 金魚 ぼうふり 漢土の金魚屋 びいどろ
 の壺 江戸の金魚屋 團魚 辨慶がに 談義坊 杜父魚 捕魚打鳥吉日の歌 水瓶に魚を入れ置こと

草合 すまひ草 馬唐穂相撲 るから相撲 松葉きり かつら草 ひな草 欽冬皮のかもじ 茅花を
くへば肥るといふこと 草結 山茶花くらべ 白つばき 草木はやりもの 朝がほ 檀木鉢 菊
菊のきせ錦 大菊 金目貫 菊合 作り菊 梅やしき 萩寺 千葉蓮 並頭蓮 橋の下の菖蒲 稗ま
き 穀板 林檎に模様 花の塔 花の塔の事始 薫を行燈に吊す 日蔭の桃木 八重脚踏 ひよんの
木 なんじやもんじや 松浦の歌 正月の松かざり 松竹梅 松葉の兵 藤原吉野 花を瓶にさす事
活花 削り花 立花の法式 池坊廻り花 投入 菜籠 薄はた うけ筒 竹筒 薄板 水仙の早
咲 生花の書 後世生花師 鉢植木 ならうかなるまいか 嫁樹 江戸の本草學の始 御藥園 採藥
使記

或問附錄

和歌三神 しづをかけたる雪の笠 武家のみつゆび みさき踊 高野六十奈智八十 きな臭い 内儀を
カミサマ 春雨歌 畫法を用ひて假山を作る 庭 鞠歌のオケンシヨサマと云こと 烏丸光廣卿十二
支和歌 蝶の怖るゝ歌 江口君畫贊 猛の繪の事 ヘタと云ふ語の事 三方荒神の事 よぼろの事 庖
丁の事 すはる星 垣下坐 横の下の舞 美婦を凸といふ 常陸祭文 日本祭文 チヨボクレ 常陸祭
文の一種 貧家の籠 百日紅 番字の意義 茶博士 松竹梅 眼巾を燈心入れとなす 鼠とり薬 青物
を糸針入とせんとす 指甲紅 四景題情 圓社 牧童畫軸の詩 古き筆きりくす 折権 檇代肴代
笑語 以髮易糖 落咄 鬼に疣とらる 險蚌 蔡京毎に香を焚く 妓館の婦を鳩と云 七尺の夫に二尺
の婦 書を讀て睡る 足癪に柴芒を鼻に付る 燈籠は白きを尙ぶ 治第の燕に賓客を下し諸工を上と
す 呎兒の詩歌 大蘿葡萄 苾くらべ 歪をなす者の誠め 痴瘡 對食 発車 大言 好食不貪 薔薇
百日紅 椿 盆景 箱庭 花を括る事 蝶笛 幕間の扈從 獄舎を禁中と云ふ 馬頭 笑飴 魔閣

玩子 檜 許願 還願 帽舉脚力 妻未有室 福生帳布 御身 江戸に猪狩の事 はたご 塚の眞言
僧 てぐる坊 放出 紙裏より見れば數字に見ゆる假名 三十三間堂の起立 突上窓の事 破壊を以
て牖又は門となす 傀儡 摄弄之戯 摄博之術 冬學 ベソ 長押 島新きも冠となす 岩木にあ
らねば 二ツ瓦三ツ棟に造たる船 升居屋形の船 見みえの意義 そこはか 止觀行者四種三昧の大
意 許魁の膂力 大腹賈 私錢盜鑄 人肉を食ふ 淨心の法號は淨土宗葬所は天台宗 歌誹百人撰の作
者梶首せらる 延命院と仙石騒動の作者 筆師に小法師と云ふこと おも黒き 鳥金 正保頃の町名
かたぐるしき者を延喜式又は古文眞寶と云ふ 濃草三十三間堂創起 古へ遊女白拍子招かざるに來
る 食店 行菜 鐘頭 素分茶 目蓮救母の劇 今とかはれる手まり歌 嬪隨院長兵衛の異説 シンマ
クと云ふ事 策祝 歩搖 文房四神 神粧 拾赤子 賣赤子 織婦 乳子買 人置か 杜預書を啓
て人に借さず 金ほる者をケサイといふ 藝が身を助くる不仕合 肖像の寫し難き事 箭庭 在地判
武夫の殘暴 醫師の不仁 大小の札物折紙のこと 太刀の目貫 柄の巻やう 金漆 童の勇力 宿
殿 ホツホ 一件をひとまきと云ふ 穴目々々 閻羅 萩薬師 野老薬師 香木の菊柴舟 鬼杉原
百丐團 乞兒詩 奇南香 鏡背の紋 龜泉 犬居目禮古佛坐 檵に結ぶと云ふこと 普請と云こと
陰毛を毛虫になすらふ かはつるみ 鞠の名 鞠をける聲 下駄と焼みそ 月とスツボン 仲間の勤
方 奉公引札 挿抜の番入は謂れなし 文人の支配相撲を武藝とせしこと 錢を撰む制札 如木水
干 白張 如木雜色 仕丁 當世名聞を貪る人々 狂歌師錢ある者の歌を高點とす 人の別號 鼓公
福貴人に詩を送りて趨せず 知名の人々 盲者の記憶 道念節 盛衰記に出たる事ども ウケムケの
事 七福神 お菊物語 おあん物語

南京あやつり 雨がへる おでゝこ からくり人形 ゼンマイ 弥三五郎 竹田 覗きからく

り 硝子 獨狂言 樽人形 笠人形 ごばん人形 七變化

○南京あやつ
○雨かいる

南京あやつりとて人形に糸を多く付て上よりつりてつかふもの有り(西鶴置土産)四條のことをいふ處あ
まがへるの芝居なる小みせもの云々(歌舞伎事始)に芝居四條中島にありし時類焼し雨がいるといへる南
京あやつりの小芝居一軒残れり又別條にして云ふ四條中島東門前北側に雨がいるといひし南京あや
つり有り淨るりは角太夫節なり此雨がいると云事はすべて小芝居にはやねなかりしが此芝居には板やね
にて雨のふる時もいとはざりし故かく云りとあり【雨がいるの説は非なり小兒の戯にあまがへるの家と
て作ることあり小みせものゝ小屋の大きに准らへて云なり】(伊呂芝居)といふ草子に人をつかふこと南
京人形の糸さばくるよりもやすくて云るも是なり(竹豊故事)に南京糸操は寛文延寶の頃よりつかひ初め
し由京都山本角太夫芝居に専らつかひしなり江戸には兩國橋廣小路に天明九年の頃始てあり風來が(放
屁論)【兩國橋みせ物のことをいふ處】大魚出れば大蛇骨出硝石細工牽絲傀儡タナシカブツ古きを以て新らしく田舎道
者の目を悦ばしむなどいへり此操りいつも國性爺の淨るりなどを有しが文化十三年に絶たり小さも
の南京といふこと近世の俗語なるべけれど何によしにかあらむ常にかはりて小さく愛らしきをいふ殊なる
物を唐といひ南蠻といふも同じきにや其内南蠻はことに異變なるをいふさて此南京あやつりは綾つりの
義にはかなへるもの也三番叟の人形などに糸を付たる手遊は今にあり

○南京と云ふ

南京といふはもと異様なるを云なり(花見車)に俳諧の風體をいふ處談林風の後或は南京流とてさぬきを
敷と云て圓座になし三輪をひやすとのべてそめんに成る一體半年ばかりいひしらけ云々あり
○おでゝこと
○おでゝことはでこと云ことにおもじを添ていひたる也でこはでくのぼうなり【此事別に委考ありこゝに
云事
云事】其内一種おでゝこといふ人形あり古き繪双六にみゆ【此双六は前の双六の條にも云るごとくお
でゝこの圖は後の繪ながら享保の末のものとはみゆ】享保元文頃ありしみせものなるべし放下師の人形

笊籬を伏て明る度に其中の手遊さまぐにかはる傀儡なり【この人形は今もあり】四國橋廣小路なるおで
こ芝居はもと是なり月成が（後は昔物語）に父が今日はでんづくでんの前を通りて杯といひしは芝居の
ことなり堺町を通りしといふことなりと云り【でんづくでんは即おでどこでんなり芝居に鳴す太鼓の音
をいひしやうなれ共こはされどとなり】

○からくり人形

からくり人形は傀儡なり漢土には周穆王の時に偃師といふ者木人を作りて歌舞せしむ是を始とすと（事
物紀原）にいへりこゝには其始詳ならず（今昔物語）に高陽院の親王^{はき}はめたる物の上手にて細工に巧
みにおはしけり京極寺を建給へりしに其寺の前の河原にある田は此寺の領なり然るに天下旱魃しける年
此親王長四尺ばかりなる童の左右の手に器をさゝげて立る形を造り此田の中に立て置人來て其童の持た
る器ものに水を入れば盛受る時は人形の頸引かゝるやうに操り造りたれば是をみる人ごとに水を持來り
器に盛興じけるまゝ京中の人群り市をなしければ其田焼ることなくして満秩したりと云ことを載す又い
と後の事ながら（甲陽軍鑑）に景勝より御曹司信勝公へ御音信に謙信弄物城攻のあやつりからくり物敵身
方二千計の人數一間四方の城形進上云々また（老人雜話）に秀賴五歳の時京内參有伏見より行列をなす云々^{モチアツビ}錢を箱へ入るれば廻る人形を興の先に持せ諸大名供奉す棕梨一雪が（獨吟百韻）に「四條に御成門の立
春長閑めけるあやつりの作りもの水をあけ桶やかくる苗代」と云るは右に云る古事どもを用ひしにや
(似我蜂物語)に唐船の作り物に七八百の人形あるを泉水に浮ぶれば人形歌舞管絃を盡したるはてに帆柱
を立帆を揚れば一つの人形火をうち鐵砲を放てばみなうちはらひて失ぬるからくりの事を云りこは作り
もの語なめれどかゝる細工もあるべき也からくりの義はくりは操の意くり出しきり込などのくり也から
とは巻ことをからまくからみからめる皆おなじ今刀劍の飾其外白かね細工など根がねを地板に貫き裏に
て根がねを打廣げてとめ置をからくるといふ古き詞と見えて(十二番職人盡)鋼細工の歌「はなれゆく人
の心はこはかねのからくりかねてねをのみぞなく【ぜんまいからくりと云は糸また鐵の細きを巻てある